東京大学総合図書館シリーズイベント「東大研究者の本棚」Part 3

ブックトーク
言葉の海を泳ぐ

石原あえか先生が、これまでどういう本と出会い、またどのように「言葉の海」を楽しく泳いできたのかを語るブックトークです。

・好きな本、思い出の本
・専門のゲーテ研究に関する本
・研究の視野を広げてくれた本

などについて、これまでの研究の道筋を振り返りながら語っていただきます。

https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/general/event/20230214

〔総合図書館ウェブサイト「イベント」ページ内〕

2023年3月14日（火）
15:00－16:30

ハイブリッド方式での開催
(1)会場参加
場所：[本郷] 総合図書館 大会議室
→定員20名・学内者に限ります
(2)オンライン参加
→学内者・学外者を問いません
※いずれの参加方法も事前予約が必要です

予約フォーム、内容の詳細は左記ウェブサイトをご覧ください

石原あえか　Aeka ISHIHARA
東京大学大学院総合文化研究科教授・同研究科図書館長

ドイツ・ケルン大学への学位請求論文を書籍化した*Makarie und das Weltall*（マカーリエと宇宙：Böhlau, 1998）を起点に、*Goethes Buch der Natur*（ゲーテの〈自然〉という書物：Königshausen & Neumann, 2005）や『科学する詩人ゲーテ』（慶應義塾大学出版会、2010）など、日独両言語を用いてゲーテに関する著作・論文を発表している。

特に〈自然研究者〉としてのゲーテを専門とし、科学史系の仕事も多い。たとえばゲーテ時代の測量に注目した『近代測量史への旅』（法政大学出版局、2015）および『教養の近代測地学』（同上、2020）。また医学ではゲーテがいち早く評価した蠟製立体標本〈ムラージュ〉に注目し、日本国内に現存する歴史的標本を写真家・大西成明氏と調査した成果を『日本のムラージュ』（青弓社、2018）などにまとめた。最新刊はドイツのゲーテ研究者との共編著論文集*Anschauen und Benennen*で、2月に刊行されたばかり。

ゲーテ研究の醍醐味は、文学と科学を自由に往来できること。他方、文献の扱いには職人芸的熟練が求められ、参考文献の多さも群を抜くため、日々、果てしない「活字と言葉の海」を泳ぎまわっている。

【総合図書館3階ホールで関連展示を行います】
総合図書館3階ホールでは、同じく「言葉の海を泳ぐ」と題した図書展示を行っています。このブックトークにあわせて石原先生が選ばれた約40点の図書とご著書を展示しています。ブックトークで話される本のほか、幼い頃から好きな絵本や児童書、研究を進めるうえで参考になった図書、やや意外なジャンルの書籍・漫画なども展示していますので、是非ご覧ください。

【主催】東京大学総合図書館
【共催】東京大学駒場図書館

【お問い合わせ】総合図書館 展示・イベントWG
tenjiwg_event-group@g.ecc.u-tokyo.ac.jp